

## 2023年度新規採用予定者内定式について

2022年10月3日  
公益財団法人鉄道総合技術研究所

公益財団法人鉄道総合技術研究所（以下、鉄道総研）は2022年10月3日（月）10時00分から、国立研究所において、「2023年度新規採用予定者内定式」を行いました。

内定式は新型コロナウイルス感染症拡大防止のためオンライン形式で行い、渡辺郁夫理事長が新規採用予定者18名に内定を通知し、激励の言葉を贈り、挨拶しました。



写真 内定通知書を読み上げる理事長

### 理事長挨拶

本日、18人の皆さんに内定を通知できることを大変うれしく思います。また、皆さんの抱負も大変頼もしく感じました。

現在、新型コロナウイルス感染症の影響で、社会や鉄道事業が大きく変化しています。鉄道総研においても、関連テーマを設定し、感染防止の対策を講じつつ、WEB会議や、在宅勤務などを活用しながら、研究開発をはじめとする業務を進めています。

内定式にあたり、私から皆さんに3つのことをお願いしたいと思います。

1つ目は、現在、大学で取り組んでいる博士論文、修士論文をきっちり仕上げるとともに、それぞれの専門分野の知識や技術をしっかりと身につけて、課題解決のための基礎的な力を養ってください。また、その知識や技術をどのように社会に役立てるのかも常に考えてください。鉄道事業を含め、社会が大きく変わろうとしています。このような変化は、新たなニーズや、技術革新の機会を生み出します。このような時こそ、さまざまな課題に柔軟に対応できる基礎的な力を身に着けておくことが重要です。

2つ目は、「デジタル技術による革新」いわゆるDXや、地球温暖化対策のための「グリーントランスフォーメーション」いわゆるGXの視点を磨いていただきたいと思います。鉄道において、オペレー

ションやメンテナンスなどにおける無人化、省人化、省力化およびコスト低減などのニーズは高まっており、これらを実現するために必要なDXは、想定を上回るスピードで、いろいろな領域に導入されています。今後も、AI、データアナリティクス、5G、その先のBeyond 5Gなどの技術が、重要な要素技術となると思います。GXについても、2050年カーボンニュートラル実現に向けて、鉄道の脱炭素化のための技術開発が喫緊の課題となっています。皆さんの新鮮な感性を、これらの研究開発に生かしてほしいと思います。

3つ目は、鉄道のユーザーとしての目線をしっかり持っていただきたいと思います。皆さんが通学、旅行などで鉄道を利用する時、あるいは、鉄道に関するニュースを見た時に、鉄道技術に課題や改善点がないか、それを解決するために自分はどんな貢献ができるかなども、意識してほしいと思います。

鉄道総研は皆さんの若い力と新鮮な感性を必要としています。来年の4月から皆さんとともに仕事ができることを楽しみにしています。



写真 理事長挨拶